静岡県の河川で観察できる生き物

静岡県を流れる川の中には、様々な生き物たちが暮らしています。川の生き物は、上流から下流、流れの強い / 緩い、川底の違い、水がきれいなところ / 汚れているところなど、川の中の環境の違いによってすみ分けをしています。身近な川にどんな生き物がいるか調べてみましょう。

❗観察の際の注意：川に行く際には、大人の人と一緒に行きましょう。急に深くなっている場所や流れが速い場所には近づかず、水辺ではライフジャケットを着用して、安全に十分注意しましょう。

魚

アマゴ　上流

小型の魚類や昆虫、甲殻類を食べる。海に下るものをサツキマスと呼び、特徴である朱点がなくなり、銀色の体色になることから見分けられる。

カジカのなかま　上流～下流

水がきれいで流れがある場所を好み、泥底を嫌う。岩の隙間などに隠れていることが多い。水生昆虫や小魚を食べる肉食性。近年数が減っている。

ギンブナ　中流～下流

川の中でも流れが緩いところを好む。イトミミズなど水中の生き物を食べる。春から夏にかけて、水辺の植物などに卵を産みつけて繁殖する。

ウグイ　上流～河口

川の広い範囲に生息し、海に下るものもいる。春先になると川をそ上し、川の中の瀬で大きな群れをつくって産卵する。

モツゴ　下流

身体に黒い線があることが特徴。川の中でも流れの緩いところを好む。春から夏にかけての繁殖のときには、卵を産みつける石などをオスが整えて、メスを迎え入れ、孵化した稚魚をオスが守る習性がある。

ボラ　下流～河口

河口周辺の汽水域に多く、水の汚れに強い。大きな群れになり、水面に口をパクパクさせながら浮いているものを食べる姿や、水面をジャンプする姿がよくみられる。

ナマズ　中流～下流

4本の長いひげが特徴。小魚やカエルなどを捕食する肉食性。薄暗くなる夕方から夜間にかけて、活発に活動する。春に、浅瀬で絡みついて産卵する姿が観察できる。

オイカワ　中流～下流

大きなしりびれが特徴で、流れがある瀬を好む。藻類から水生昆虫まで幅広く食べる雑食性。繁殖期の夏になると、オスは鮮やかな青緑色の婚姻色が出る。

マハゼ　下流～河口

海に近い汽水域に多く、砂泥の底を好む。ゴカイや小魚、貝類や甲殻類を食べる肉食性。オスが巣穴を掘り、メスを迎え入れ穴の中の壁に産卵する。

エビ・カニのなかま

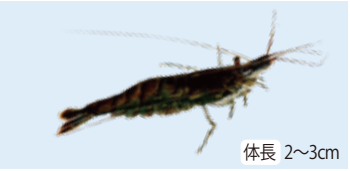
サワガニ　上流～中流

淡水で暮らすカニで、水がきれいな場所を好む。体の色は赤や白、青白いものなど地域によって異なる（写真は伊豆市産）。水中の藻類や昆虫、ミミズなどを食べる雑食性。

アメリカザリガニ　中流～下流

水草や水の中の生き物を食べる雑食性。日本には本来いない外来種の中でも、特に環境にあたえる影響が大きい「日本の侵略的外来種ワースト100」に選ばれている。飼育している場合は野外に放すことは控えよう。

ヌマエビのなかま　中流～河口



水草や落ち葉だまりなどを探すと簡単に観察できる。脚をつかって藻類や動物の死がいなどをつまむようにして食べる。種によって一生を淡水域ですごすものと、繁殖の際に海に下り、成長すると川に入って生活するものがいる。

テナガエビ　中流～河口

岩陰やテトラポッドの影などに隠れている。長いハサミが特徴で、エサをつまむときや、ほかの生き物と争うときに使う。卵から帰った幼生は汽水～海に下り、プランクトンを食べて成長すると、稚エビになって川の中で生活するようになる。

モクズガニ　中流～河口

普段は川の中で暮らしている大型のカニで、食用にもされる。秋～冬の産卵の時期になると河口へ下り、生まれたカニは成長すると川の中に入り生活する。

スズキ　中流～河口

海水魚として知られるが、河川を遡上し淡水域にも適応する。
魚類・甲殻類、ゴカイなど幅広いものを捕食する。

ウナギ　上流～河口

昼間は岩のすき間や、泥に潜ったりして隠れていて、夜になると活発に活動し、小魚やエビなどを食べる。産卵は遠くフィリピン海の深海で行われることが分かっており、稚魚が海流にのって日本の近くまできて、川の中に入って生活する。

アユ　上流～中流

秋～冬に卵からかえったものは、一旦河口へと下り、春先になると川をのぼり始める。成長するにしたがって川の石についた藻類を食べるようになり、なわばりを持つ。秋になると産卵し、一生を終える年魚。

マルタ　中流～河口

ウグイに似るが、頭が丸い点と、大型の個体では50センチほどになり、ウグイより大型である。春先に河口から河川をそ上し、大きな群れをなして産卵する。繁殖期は赤い婚姻色が腹に現れる。

海と関わりのある生き物

虫

ナベブタムシ　上流～中流

流れがあるところの岩や砂底にひそむ。水中で呼吸できる体の仕組みを持つため、完全に水中で生活する。針のような口で刺される場合があるので観察には注意。

ヘビトンボのなかま　上流～下流

幼虫は河川に生息し、水辺の土の中でまゆをつくり、成虫になる。強いあごを持ち、触るとかまれる場合があるので観察には注意が必要。

カワトンボのなかま　上流～下流

ヤゴ（トンボの幼虫）は流れがある川に幅広く生息し、ほかの水生生物を食べる。川の中でも、岸際の水に浸かった植物や、落ち葉が溜まっているところを探すと見つかる。

カワゲラのなかま　上流～下流

川底の岩の裏や枯れ葉の隙間などにいる。カゲロウのなかまの幼虫に似ているが、尾が2本で、爪が2本である点で分類できる。春～夏にかけて上陸して成虫になる種が多い。水がきれいなところを好む。

トビゲラのなかま　上流～下流

幼虫は、河川の石の裏などに巣をつくる種とつくらない種がいる。巣の材料には石や砂、枯れ葉や朽ち木などを利用し、それぞれの種で特徴的なものをつくるため、巣から種の見分けができることがある。

カゲロウのなかま　上流～下流

さまざまな種が生息し、河川の中の上流から下流までの場所の違いや、流れの有無で見られる種が異なる。春～夏にかけて成虫になるとき、昆虫では珍しい亜成虫の段階を経る。